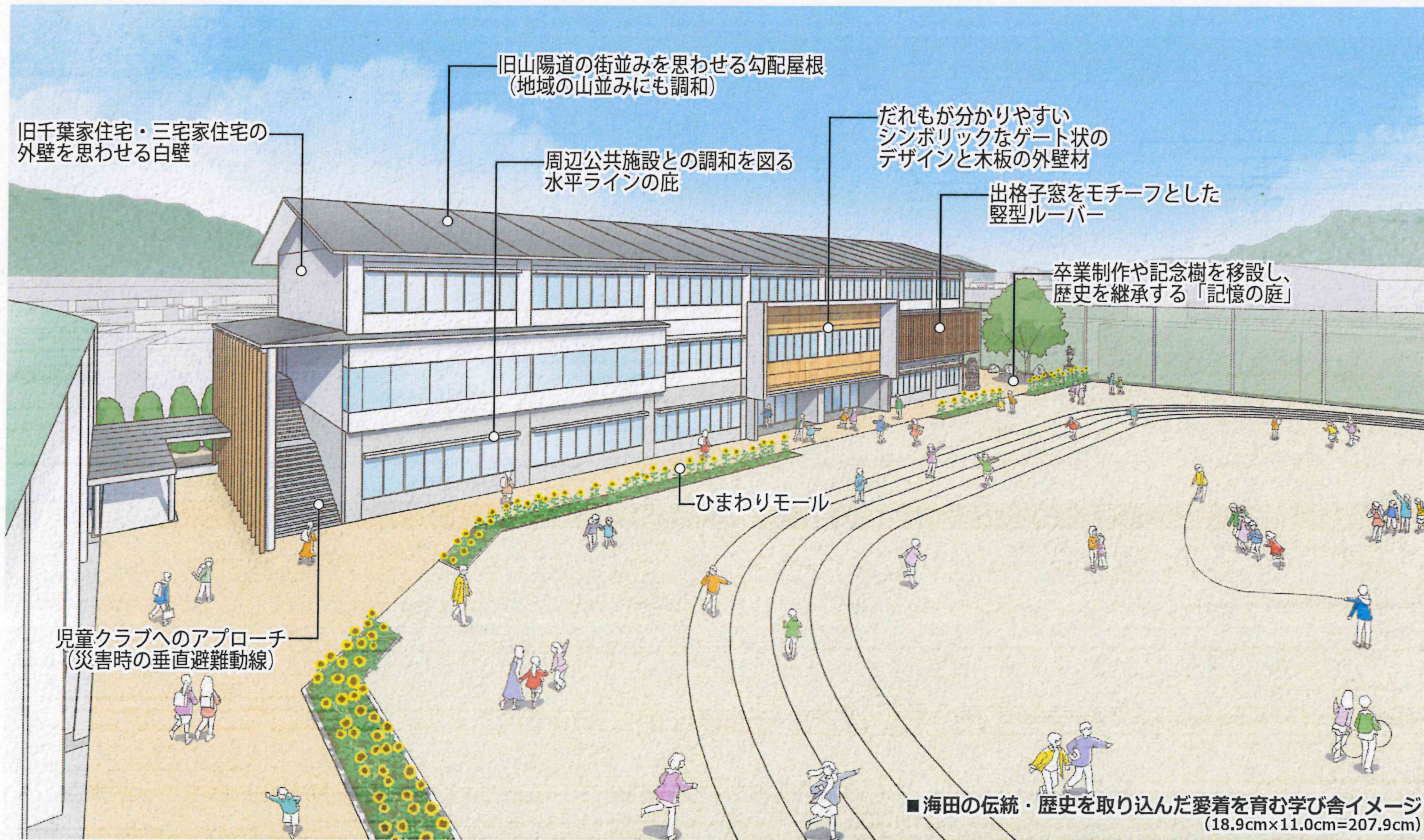


建替後の建物配置・平面計画に関する提案及び建替えのプロセス（新築、解体、移転等）に関する提案、「学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」,「快適で温かみのある空間の整備」,「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画,サイン計画」,「長期的な視点に立った,維持管理のしやすい施設整備」及び「シビックプライドを育む施設整備」それぞれの提案並びに全体事業期間の短縮に関する提案及び全体事業費（イニシャルコスト）の圧縮に関する提案

ひと・伝統・歴史・地域コミュニティをつなぐ拠点として「地域とともに育つ小学校」をつくります。



01 建替後の建物配置に関する提案 児童が安全快適に生活できる校舎配置と動線計画

コンパクトな施設配置と児童の安全性に配慮した動線計画

- ・新校舎は周辺住宅へ配慮しながら敷地南側にコンパクトに配置し、広く整形なグラウンドを確保します。
- ・給食室は幹線道路への接続に優れる敷地南西側に配置し、町立中学校への配送を含めて安定した給食サービスが提供できる計画とします。
- ・駐車場は高低差のある敷地北側と正門北側に集約配置し、歩車分離を明確に行い、児童の日常的な安全に配慮します。
- ・南門を設け、南側からの登下校に配慮します。

見守り強化と防犯対策

- ・職員室などの管理諸室はグラウンドに面した新校舎1階北側に配置し、児童の見守りに配慮した計画とします。
- ・多くの大人の目で管理できる室配置とし、正門まわりや教職員の目が届かない場所については防犯カメラなどの機械警備を行います。

周辺住宅地への配慮

- ・周辺住宅地に対して十分な離隔距離を確保します。また、建物のボリュームを既存校舎と同じ3階建とし、住宅に面する部分を勾配屋根とすることで、軒高さを低く抑えた圧迫感の少ない計画とします。
- ・樹木や防音パネルの設置による緩衝帯を住宅との敷地境界に設けることで、視線や音へ配慮するとともに、住民にとって良好な環境づくりに配慮します。

過去と未来をつなぐ「記憶の庭」

- ・新校舎西側に「記憶の庭」を設け、卒業記念の樹木、卒業制作作品などを移設し、過去の記憶を未来へ継承する場とします。



02 テーマ3 誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画 スムーズに利用者を導く「ひまわりモール」

みんなが集い、地域とつながる「ひまわりモール」

- ・児童の登下校のアプローチ空間を「ひまわりモール」として整備し、登下校時のあいさつや異学年交流、地域とのイベント利用などの場とします。
- ・ひまわりモール沿いの花壇には、町花であるひまわりを植え、四季のうつろいを演出し、郷土への愛着を育みます。

だれもがわかりやすいシンボリックな昇降口デザイン

- ・児童昇降口や来客玄関はゲート状のデザインと木板張りの外装デザインにより、玄関として視認性の高いわかりやすいものとし、だれもがスムーズにアプローチできる計画とします。

03 テーマ5 シビックプライドを育む施設整備 地域に根づいたデザインの継承

海田町の歴史を未来へつなぐ外観計画

- ・旧山陽道（西国街道）周辺は、古い街並みや小路などが今でも変わらず残されています。伝統的な街並みの構成要素を建物デザインに取り入れ、まちの原風景を継承します。



周辺の景観と調和する施設づくり

- ・近年の海田町内の公共施設と共通のデザインコードによる外観計画を行います。町内の公共建築物に統一感を持たせることで、地域の景観調和を図ります。



海田町の誇りを未来へつなぐ

- ・織田幹夫氏の偉業を称えて設置された「織田ポール」は、新校舎建設後に移設し、再利用することで、後世に語り継がれる海田町の歴史・誇りを未来へつなげる計画とします。

04 特に重視した計画・設計上の配慮事項 災害に強い安全安心な地域防災拠点

拠点避難所としての防災機能を備えた校舎づくり

- ・建物構造は、大地震時の耐震性や水害に対する耐水性に優れた鉄筋コンクリート造とし、耐震安全性能を一般施設の1.25倍とし、安全な避難所としての機能を確保します。
- ・高潮や洪水時、上階が避難所に指定されていることから、2階まで直接避難できる屋外階段を設け、拠点避難所としての防災機能を強化します。
- ・災害時、水や電気を確保できるよう、受水槽やキュービクルなどの設備機器を2階以上に設置し、災害に強く安心して避難できる防災拠点とします。

05 建替えのプロセス（新築、解体、移転等）に関する提案 安全性と学校運営に配慮した建替計画

工事車両専用出入口の設置による歩車分離の徹底（Step1～4）

- ・工事車両動線と学校利用者動線を明確に分離し、工事車両専用出入口（南門）には交通誘導員を常時配置します。
- ・児童や教職員の安全確保を最優先とし、安全安心な登下校と周辺道路での事故防止に配慮します。

工事期間中の運動スペースの確保（Step1～4）

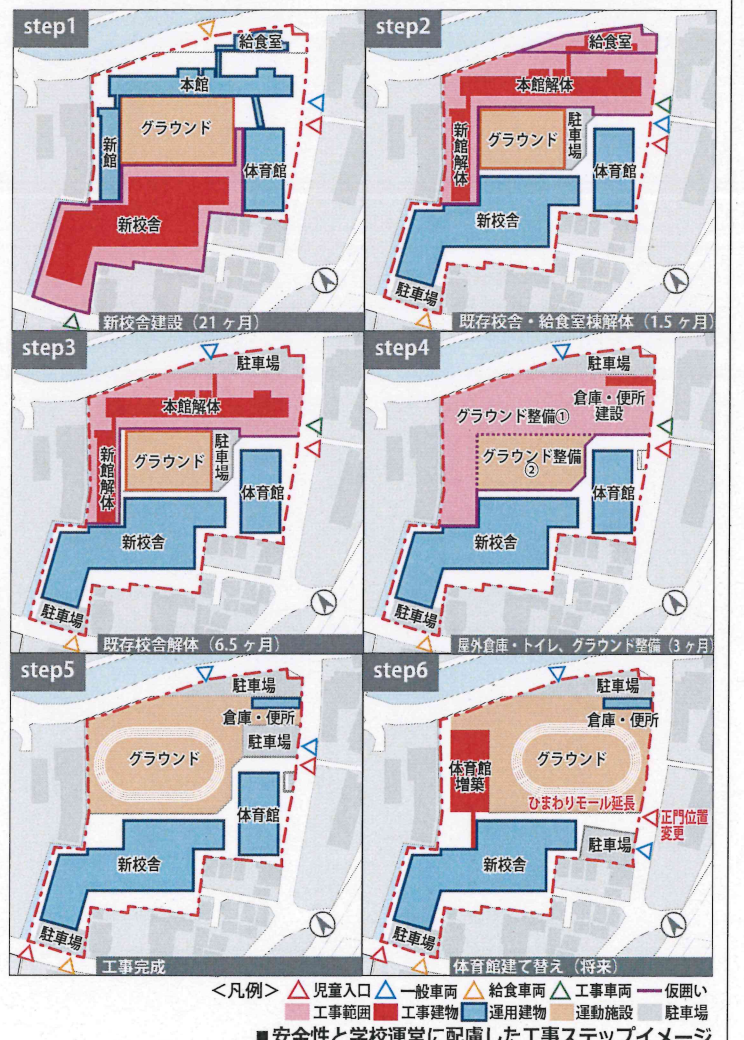
- ・仮設校舎を必要としない校舎建替計画と仮囲いによる適切な工事範囲の設定により、工事期間中も常にグラウンドが利用できる計画とします。

給食室の早期解体による駐車スペースの確保（Step3）

- ・新校舎竣工後に給食室を先行して解体し、駐車場を整備することで学校運営の負担を最小限に抑えた計画とします。

将来を見据えた配置計画（Step6）

- ・体育館の建替スペースの確保と新校舎から新体育館へのスムーズな動線を確保した配置計画とします。
- ・正門位置を移動し、新校舎へのアプローチ動線「ひまわりモール」を延長整備します。
- ・将来にわたって、子どもたちが思いきり遊べる広く整形なグラウンドを確保します。



建替後の建物配置・平面計画に関する提案及び建替えのプロセス（新築、解体、移転等）に関する提案、「学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」、「快適で温かみのある空間の整備」、「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画、サイン計画」、「長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備」及び「シビックプライドを育む施設整備」それぞれの提案並びに全体事業期間の短縮に関する提案及び全体事業費（イニシャルコスト）の圧縮に関する提案

新しい時代の学びを実現し、「考え実践する、海田東っこ」を育む学校づくり

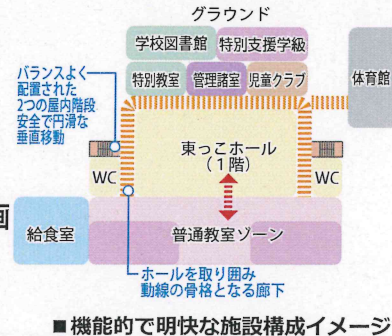
01 ●テーマ3 誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画、サイン計画／●建替後の平面計画に関する提案 だれもがわかりやすい明快な施設構成

機能的で明快なゾーニング

- ・新校舎はグラウンドや体育館へ移動しやすく、避難しやすい低層でコンパクトな3階建ての施設構成とします。
- ・「東っこホール」の南側に普通教室、北側に管理諸室、特別教室、児童クラブなどをまとめて配置したわかりやすいゾーニングとします。

東っこホールを中心とした分かりやすい動線計画

- ・「東っこホール」を中心に骨格となる動線と2ヶ所の屋内階段を設置することで各ゾーンを円滑につなぐとともに、教室移動の際に他学年の前を通らないスムーズな動線計画とします。



■機能的で明快な施設構成イメージ

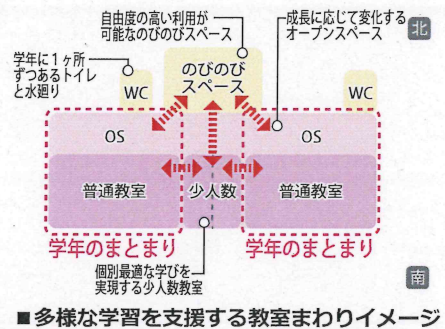
02 ●テーマ2 快適で温かみのある空間の整備／●建替後の平面計画に関する提案 多様な学習、主体的な活動を支援する教室まわり

明るく居心地の良い南向きの普通教室

- ・普通教室は各階2学年ごとにまとまりを形成し、採光・通風に優れた全室南向きの教室配置とします。

教えやすく学びやすい普通教室

- ・スライド黒板や広い掲示板、タブレット保管庫を含むICT教育環境などを充実することで、使い勝手の良い、教えやすく学びやすい普通教室とし、新しい時代の学びを実現する計画とします。

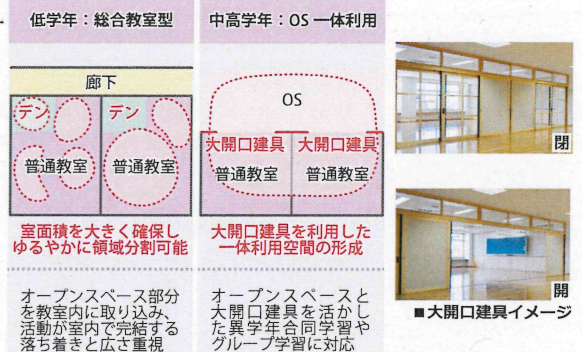


■多様な学習を支援する教室まわりイメージ

児童の成長に応じて変化する学年ユニット

- ・普通教室と連携しやすい位置にアクティブラーニングや交流学习など、これからの多様な学習形態に対応するオープンスペースを設け、学年ユニットを形成します。

- ・普通教室とオープンスペースまわりは、児童の成長に応じた学習内容や学習形態の発展に対応する計画とします。



■成長段階に合わせた普通教室イメージ

主体的・専門的な学びを支援する特別教室ゾーン

- ・特別教室は教科横断的な学びに対応できるよう3階にまとめて配置します。
- ・特別教室に隣接して「教科メディアスペース」を設け、教材・成果物の展示や書棚を確保することで児童の好奇心や探究心を触発します。

落ち着いて学習・生活ができる特別支援学級

- ・特別支援学級は他教室からの音に配慮したゾーニングを行うとともに、障がいの程度や教育上必要な支援の内容に応じて、グループ学習や個別指導、クールダウンのできるスペースを用意します。
- ・教師コーナーや専用トイレの設置など、安心して学習・生活できる環境を整えます。

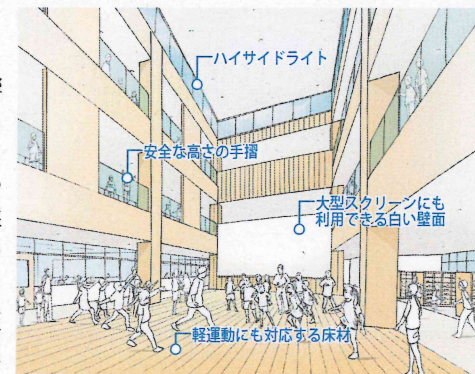


■教科メディアスペースイメージ

03 ●テーマ2 快適で温かみのある空間の整備／●建替後の平面計画に関する提案 様々な教育活動、地域活動を創出する2つの空間

学校と地域がともに学ぶ「東っこホール」

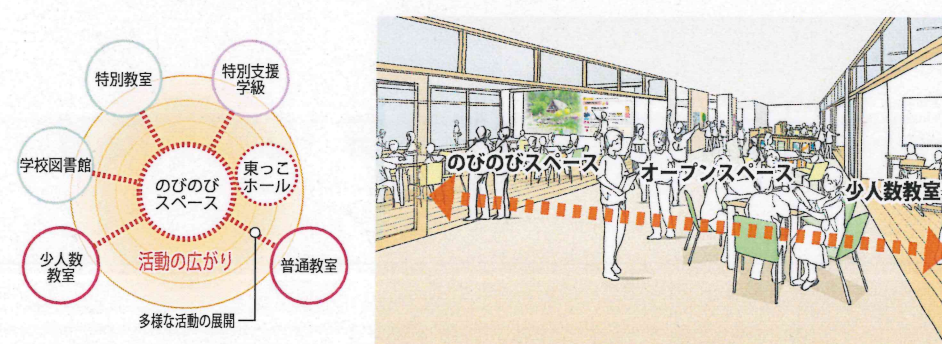
- ・昇降口に面した位置に「東っこホール」を計画し、学校と地域がともに学ぶ場、集会や軽運動もできる場とし、映像音響などを充実し、会議・講演会にも対応します。
- ・台風や豪雨災害などを考慮し、中庭やトップライトを設けず、ハイスайдライトで採光を確保する3層吹抜空間とし、活動の様子が各階から見えるようにします。
- ・最上部に自然換気窓を設けることで、校舎全体の通風を確保し、快適な環境を実現する環境装置とします。



■地域とともにまなぶ「東っこホール」

様々な教育活動を実現する「のびのびスペース」

- ・2階・3階の普通教室、学校図書館、特別教室から利用しやすい位置に、「のびのびスペース」を計画します。大開口建具により、必要に応じて閉じられる空間とし、様々な学習に対応するとともに、休み時間の居場所となる計画とします。



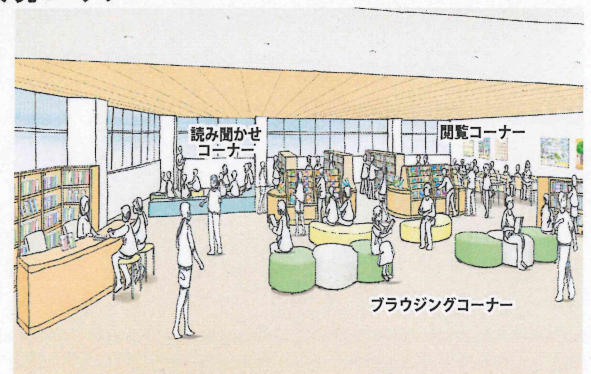
■のびのびスペースの展開イメージ

■教育活動の幅を広げる「のびのびスペース」

04 ●テーマ1 学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備 学びの拠点、豊かな居場所となる学校図書館の計画

主体的な学びを支援する環境づくり

- ・学校図書館は、各学年の普通教室から利用しやすい、2階の中央部に配置します。
- ・書架量は、学校図書標準により算出し、見通しのよい低書架で適切に確保します。
- ・1クラスの授業が行える閲覧スペース、数人で居られるソファ、読み聞かせコーナーなどを用意し、様々なコーナーのできる読書学習センターとします。



■見通しが良く、学びの拠点となる学校図書館

- ・一人一台の情報端末を最大限に活用できるようICT環境を充実し、本と情報端末を利用した調べ学習を行えるなど、情報センターにもなる柔軟な計画を行います。

05 ●建替後の平面計画に関する提案／●特に重視した計画・設計上の配慮事項 放課後の学校施設を有効活用する児童クラブの配置

学校図書館を利用可能な配置と適切な管理区画

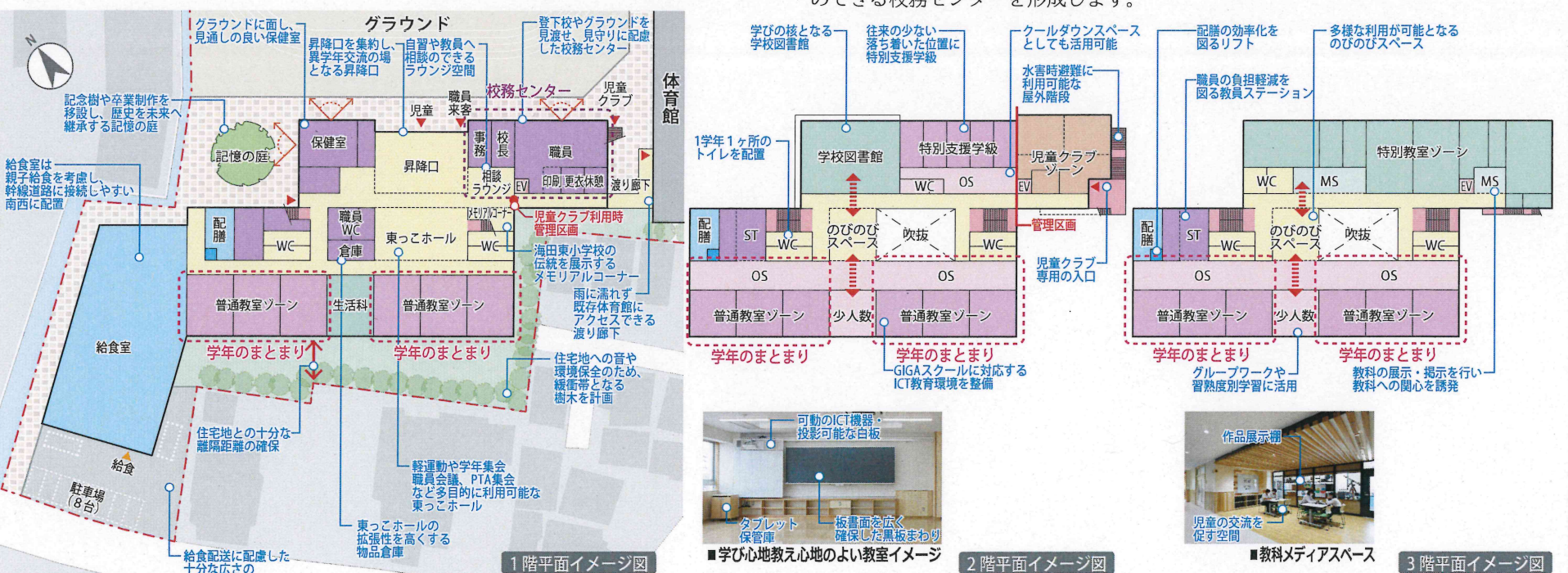
- ・2階に児童クラブを配置し、放課後に学校図書館を利用可能な計画とするとともに、適切に利用区画します。
- ・児童クラブからグラウンドや体育館を利用しやすい動線を確保するとともに、水害時の避難にも対応します。

06 ●建替後の平面計画に関する提案／●特に重視した計画・設計上の配慮事項 教職員が働きやすい執務環境の整備

教職員が連携しやすい校務センター 児童と教員の交流空間の整備

- ・教職員の執務空間、印刷、更衣、休憩を集約配置し、教職員が協働しやすく、円滑に執務・作業・打合せなどを行うことのできる校務センターを形成します。

- ・職員室前に子どもたちが気軽に相談できるラウンジやカウンターを設け、児童に寄り添う空間づくりを行います。



＜凡例＞WC：トイレ OS：オープンスペース MS：メディアスペース ST：教員ステーション EV：エレベーター

建替後の建物配置・平面計画に関する提案及び建替えのプロセス（新築、解体、移転等）に関する提案、「学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」, 「快適で温かみのある空間の整備」, 「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画, サイン計画」, 「長期的な視点に立った, 維持管理のしやすい施設整備」及び「シビックプライドを育む施設整備」それぞれの提案並びに全体事業期間の短縮に関する提案及び全体事業費（イニシャルコスト）の圧縮に関する提案

学校運営に負担が少なくライフサイクルコストに配慮した快適で長寿命な施設づくり

01 ●テーマ2 快適で温かみのある空間の整備 / ●テーマ3 誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画, サイン計画 / ●テーマ5 シビックプライドを育む施設整備
多様な居場所にあふれた、だれもが使いやすい安全な施設づくり

児童1人ひとりに寄り添う多様な居場所づくり

- ・日常動線上の各所に、児童の居場所となる空間（オープンスペースやベンチなど）を設け、児童同士の日常的な交流を促す居場所を計画します。
- ・内装材やサインには地域産木材を積極的に活用し、木の温もりや質感を感じる居心地の良い空間づくりを行います。



■ベンチイメージ ■木の温もりのある空間イメージ

誰もが利用しやすいユニバーサルデザインとバリアフリーの徹底

- ・敷地内・建物内は、段差のないバリアフリーな計画とします。
- ・わかりやすいサイン計画やバリアフリースイールの設置などにより、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい計画とします。
- ・室名サインなどは、英語併記が行われたサインを採用します。

感染症対策などに配慮した健康的な環境づくり

- ・広い手洗いの設置や各教室の個別換気システム採用など、感染症の拡大・流行を未然に防ぎます。
- ・トイレの自動水洗化や欄間付学校間仕切りの採用による自然採光・換気の促進など、明るく衛生的な学校づくりを行います。

02 ●テーマ4 長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備 / ●特に重視した計画・設計上の配慮事項
維持管理しやすく、長寿命なエコスクール

清掃しやすく維持管理しやすい学校

- ・外部開口部は引違い窓を基本とし、清掃性に配慮します。
- ・水切りの設置や外壁へ自浄作用のある汚染防止塗料を採用し、外壁の汚れを防止することで清掃頻度を抑えます。
- ・清掃しやすいディテールや耐候性の高い材料の採用など、維持管理しやすい計画とします。

省エネかつ長寿命な学校

- ・将来的な学校運用の変化に対応できるよう、校舎はスケルトンインフィル工法を採用し、教室転用や用途の転用が行いやすい計画とします。
- ・設備スペースは機能停止せずに機器の更新・増設・盛替えに配慮した予備スペースを確保します。
- ・建物の維持管理のしやすさや長寿命化に配慮した設計により、光熱費を削減し、建設後の維持管理費抑制に努めます。

地球環境と共生するエコスクール

- ・自然エネルギーを活用するとともに、外皮の高断熱化、高効率機器の採用などにより、省エネルギーな建物とします。維持管理・更新性に配慮した、費用対効果の高いZEB化を行います。
- ・東つ子ホールは、吹抜けを利用した重力換気により、自然換気を促進する環境装置として計画します。
- ・自然エネルギー利用の環境対策が体感できる施設とするとともに、エコモニターを設置し、省エネルギー効果を見える化するなど、校舎全体が環境学習の場となる計画とします。

特徴的な空間と海田らしいサインによる利用しやすい施設計画

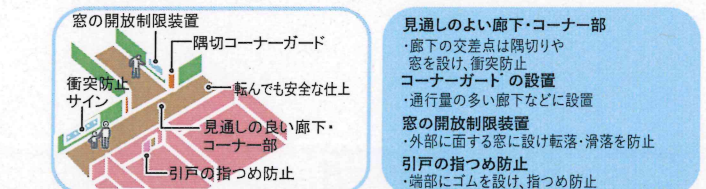
- ・階別や学年ごとにサインの色彩を分ける事で、視覚的に分かりやすい計画とします。
- ・海田町の地域特性や文化的背景を丁寧に汲み取り、サインの色彩に取り入れることで、地域への愛着を育み、海田らしさあふれる計画とします。
- ・建物内に設置する各種案内板は、背の低い児童や車椅子使用者に配慮した高さでの設置や点字併記を行います。



■海田町カラーイメージ

未然に事故を防ぐきめ細やかな安全設計

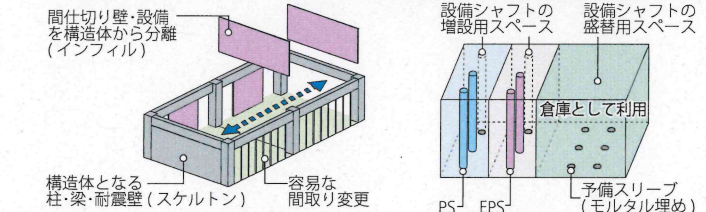
- ・活発な子どもたちの活動を支えるため、安全に配慮した工夫により、未然に事故を防ぐ計画とします。



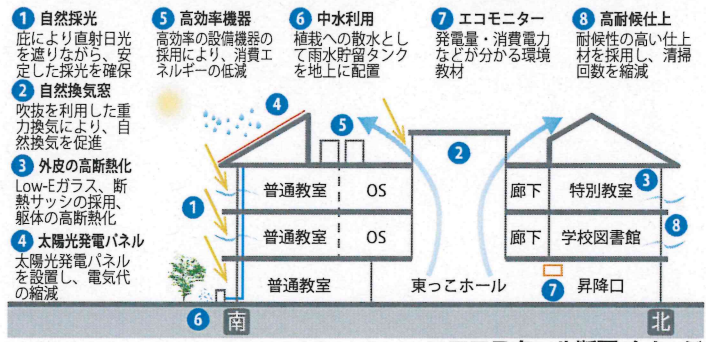
■安全設計のイメージ

- 維持管理・メンテナンスに配慮した長寿命化型設計手法**
- ・高効率機器による光熱費削減
 - ・太陽光発電・雨水利用による光熱費削減
 - ・自然換気システムによる光熱費削減
 - ・節水機器・器具の採用による光熱費削減
 - ・人感センサー設置による光熱費削減
 - ・EPSなど情報機器増設スペースの確保
 - ・乾式間仕切りを採用しフレキシビリティ確保による改修費削減
 - ・清掃しやすいディテール、テラスの設置等による特殊清掃費削減
 - ・耐候性の高い材料や機器を採用
 - ・電源盤はメーカー標準品を採用

メンテナンスコスト削減イメージ



スケルトンインフィルイメージ



■エコスクール断面イメージ

03 ●全体事業費（計画、設計及び施工等その他関連するイニシャルコスト）の圧縮に関する提案
豊富なコスト削減手法を用いたイニシャルコストの圧縮

コンパクトな施設計画によるコスト削減

- ・新校舎は、仮設校舎を用いないコンパクトな3階建てとすることで、イニシャルコストを最大限圧縮する計画とします。
- ・計画規模、施設面積の計画にあたっては、国庫補助負担金に基づき学級数に応じた補助対象面積以下とし、地方負担が少なくなる海田町に寄り添った計画とします。

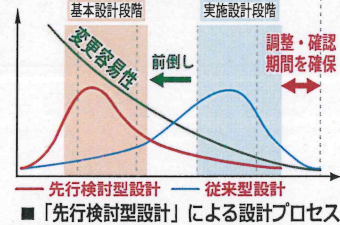
イニシャルコストを削減する合理的設計手法

イニシャルコストを削減する合理的設計手法		
イニシャルコストを削減する合理的設計手法		
・建築面積を抑えたコンパクトな計画	・工業製品や汎用品の積極的採用	
・経済的なスパン・空間構成	・部分ビットによる埋め戻し土量の削減	
・内外装部材の規格・標準化	・高支持力杭による杭本数の削減、工期短縮	
工事費削減項目		想定コスト削減
土工事	部分ビットによる土工事の削減	ー2,500万円
杭工事	高支持力杭による杭本数の削減・工期短縮	ー1,700万円
躯体工事	階高の抑制・上部構造の軽量化・経済的なパワの採用	ー500万円
内外装工事	サッシ・内装材の汎用材・流通材の採用	ー1,300万円
小計		ー6,000万円
仮設校舎（施工・運用(26ヶ月)・解体費）		ー33,000万円

04 ●全体事業期間（計画、設計及び施工期間）の短縮に関する提案
総合的な視点による全体事業期間（4ヶ月）の短縮

「先行検討型設計」によるスムーズな業務推進

- ・業務初期段階から設計課題・問題点・確認事項の明確化と設計方針・検討項目・工程の共有化を図り、手戻りや漏れをなくす「先行検討型設計」を実施し、計画・設計期間を3ヶ月短縮可能な計画とします。



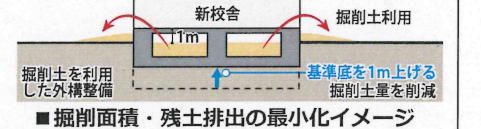
■「先行検討型設計」による設計プロセス

仮設校舎なしとした学校に負担の少ない計画

- ・新校舎の建設において、仮設校舎を用いない計画とすることで、敷地内工事期間を縮減し、引越し回数が少ない学校運営への影響が少ない計画とします。

施工の合理化や現場作業の省力化に配慮した設計

- ・柱や梁などの部材寸法やスパンの統一、設計形状や納まりの簡素化により現場作業の効率化を促進し、型枠材の転用回数の向上を図り、建設コストを削減します。
- ・高支持力杭の採用により、基礎毎の杭本数を削減するとともに、鉄筋工事における各部位を工場にて先組みすることにより、施工現場の組立作業を大幅に省力化、省人化し、建設コストを削減します。
- ・ビット範囲や深さを最小限に抑え、土工事にかかるコストを削減します。



■掘削面積・残土排出の最小化イメージ

段階的なコストコントロールの実施

- ・学校建築の豊富な実績データを活用し、昨今の資材高騰や人件費の動向を常に把握しながら各段階毎に算出し、予算との整合を図りながら設計内容を見直す、段階的なコストコントロールを行うとともに、工事発注後の不調を発生させない計画とします。

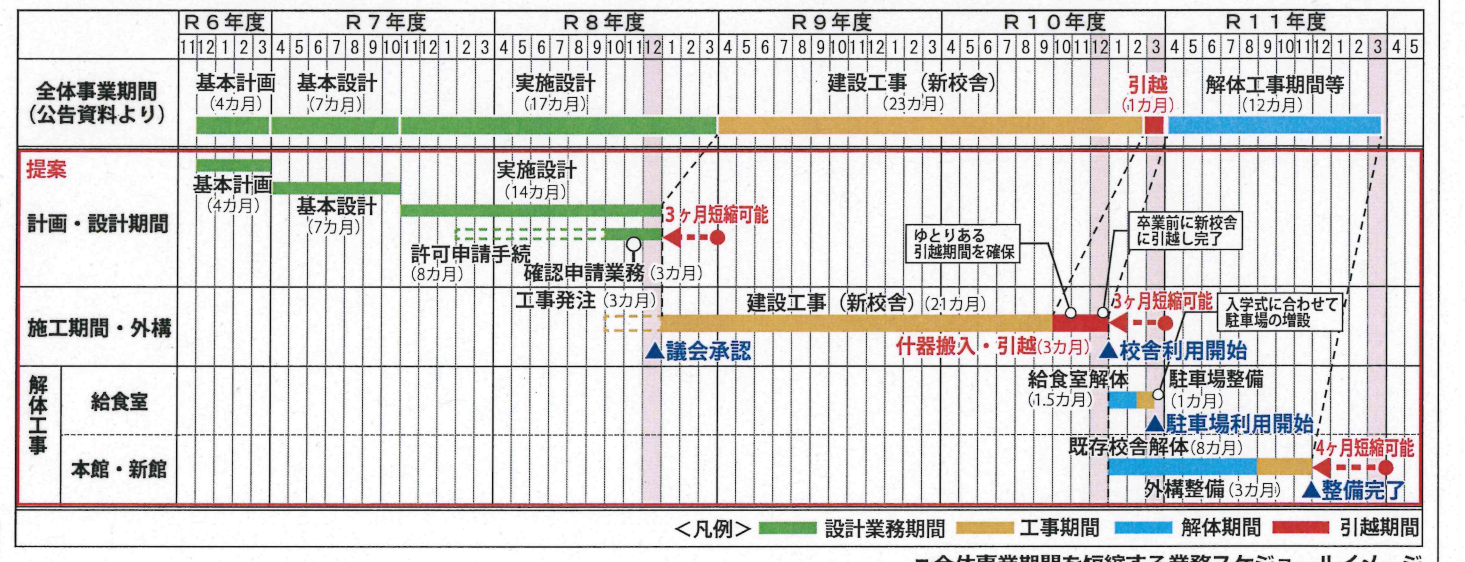
建設工事期間を2ヶ月短縮する合理的設計手法

- 工事期間短縮を図る合理的設計手法**
- ・鉄筋組み込みデッキスラブの採用によるスラブ配筋等の省略
 - ・1階床下への型枠兼用断熱ボードの採用による脱型期間の短縮
 - ・基礎底レベルの嵩上げを行い、土工事を減らす計画
 - ・杭本数の削減による杭工事期間の短縮
 - ・内装材、ユニット品の標準化、既製品の採用

合理的な工期短縮手法イメージ

卒業していく児童たちが新校舎を利用できる工事期間の設定

- ・設計期間・工事期間の短縮により、什器搬入・引越しを12月で完了します。3月に卒業する児童たちが冬休み明けの1月から利用可能な工程計画とします。



<凡例> 設計業務期間 工事期間 解体期間 引越期間

■全体事業期間を短縮する業務スケジュールイメージ